

創刊500号特集



初代大館市長

佐藤 敬治氏

(昭和26年～昭和42年)

創刊当時の市長ですが、
創刊のいきさつなどは
いかがでしたか

昭和二十六年八月創刊？そんな
に早くから作ってたかなあ。
ずいぶん早いな。だれが書いて
たんだろう。

あのころはあちこちの市や町
で広報が始めてね、それに刺
激されたんじゃないかな。やつ
ぱりね、民主主義の時代だから
教えることが大切だというのが
あって、どこの市町村でも広報
作るような感じだったなあ。あ
ちこちから取り寄せて作ったん
じゃないかな。それにしても早
いね、就任してすぐだもの。

広報の役割や当時の編集
方針などはどういうふう
だったのでしょうか

どのぐらい広報は市政のプロ
パガンダ(宣伝)に役立ったもん
だかな。内容をみてみないと分

からないね、もう。

編集方針とか言われてもあん
まり記憶にないな。何か書けと
言われたらちよっと書いてたぐ
らいじゃなかったのかな。なに
しろ、広報活動とは何をするの
か、こういうことからPRしな
ければならなかったんだよ。様
式も新聞みたいだったしね。

市制施行のころの思い出、
大館市の昔のころのお話
を聞かせてください

水害を思い出すな。あれは二
十六年の七月だよ。あのころは
水害が起きてねえ。もう上流か
ら橋が順々に流れてきて、それ
がまた橋にひっかかってその橋
を流すんだよ。一年に二回ぐら
い橋をかけたこともなかったか
な。みんな木造の橋なもんだか
ら腐ってくるし、そのうえに洪
水だからすぐ流れちゃうんだ。
最初のは思い出すな。市長にな
ってすぐだし、生まれて初めて
建設省ちゆうとこへ陳情に行っ
たんだよ。(笑)

国体スキーもあったね。当時
冬の交通っていうのは全く閉ざ
されててね、こっちでノルディ
ック、大湯でアルペンなんだけ
ど、離れた会場をどうやって結
ぶかてえらい問題になった。そ
れまでは汽車しかなかったんだ
から。その時に初めてブルドー
ザーで道をつけて車を走らした
んだけど、意外とうまくいって

速かに災害復舊



ね、あれから一気に冬季交通革
命みたいのが起きて、今みたい
に車が走るようになったんだよ。
あれがきっかけだった。花輪へ
車でなんて夢のようだったんだ。

あとは火事だなあ。それとそ
の後の火災復興、あれは苦勞し
た。合併も話題になったし、病
院の移転、国保、区画整理、上
水道もそう、あれも大変だった
なあ。上水道で水が出た時はう
れしかった。シューワと大噴水
のように出てね。たでもう少し早
くできてれば東駅前の火事に間
に合ったのに、ちよっと遅かった。

総じて言えば、戦後の混乱期
から高度経済成長の直前までが
任期だった。一番の混乱期で、
自分の任期中というのは目も当
てられない状況だったよ。戦後
処理と火災復興、何を作るにも
あらゆるものが配給制だったか
ら容易じゃなかった。学校の六
三制もあってね、あれが当時の
自治体財政を圧迫した最大の原

因だな。これまでの古びた学校
を直すだけでも苦しいのに、新
たにもう一つ新制中学校を建て
なきゃならなかったものなあ。
今の広報はいかがでしょう

また、今後の広報はどう
あるべきでしょうか

最近のはあまり目を通してな
いけど、情報化時代にあつて、
広報というのは非常に大切だし、
大事になるんじゃないの。市と
家庭を結びような、しかも多元
的に発展させていくようなこと
が。いろんな情報がある中で、
どれが本場でどれが偽物かを選
別して、これはこう、あれはこ
うだと教えられるようなね。
情報が多くなるにつれて広報
は大事になるけれども、世間の
情報化時代に遅れをとれば何の
役にも立たなくなるから、大い
に勉強する必要があるんじゃない
かな。市政の中で市民と市を
結ぶ最大のものだろうから、よ
り細やかな情報提供というのも
必要になるだろう。